■２００７年7月２０日





人の価値観がさまざまであるように、また人が「これは大変なことになった」と、狼狽する時の内容もさまざまであるようです。

さきほど、母ちゃんが、超うろたえた声で、またひときわ甲高い声で、大騒ぎしました。まだわたくしは、まったく意に介していなかったのですが、母ちゃんには、それが大丈夫に見えなかった模様です。

米は通常スーパーから５ｋｇを購入します。そしてそれが、約ひと月ほどもちます。残りを確認していましたが、あと３食分（１合半×３回）ほどあるようでした。

ところが、母ちゃんの目には、それがもはや篭城中、底をついた兵糧のごとくに見えたのでしょう。

左図は、その時の、大騒ぎの母ちゃんの状態をイメージした図であります。（※注「あんたは、どがんすっとねーっ」とは「あんたは、どうするつもりか！」との意です）

昔の人は、特に「お米」に対する思い入れが強いものです。何はなくとも、お米だけは切らすことがあってはならぬ、お米切らすは、台所を預かる女の恥、というところがあるのでしょう。

不足なものがあれば、ちょいと車を走らせれば、すぐに調達できる環境に今あるのですが、母ちゃんには、なかなか、そこらの切り替えが出来ない模様です。

これは冷蔵庫に、ちゃんとモノで満たされていないと、どうも不安になる、という心理と一体的なものです。

また、拡大解釈するならば、洗い物について、出来るだけ洗剤を使わないよう、使わないよう、留意するのとも、一体的な心理であります。

モノが不足していた時代の主婦の責任感が、そっくりそのまま今の時代にまで、そのしっぽを残している、と言えるのかもしれません。

■２００７年7月２４日

母ちゃんには、母ちゃんの人間関係というのがあるもので、例えば、週に何度か野菜を売りにくる行商のおっさんとの関係もそうです。軽トラックに、たぶん自家製の野菜でしょうか、それらを積んで、この駐車場に乗りつけます。

店子さんがいる時は、２世帯がお客さんだったのですが、今は、我が家１軒がお客さんです。

おっさんは、１軒になったお客さんである母ちゃんの不自由な脚を配慮して、軽トラックを、ウチの玄関近くに停めます。

母ちゃんは、また来たバイと一見迷惑そうな顔をしますが、実はそうではないようです。おっさんも、このばあさんいつもカンカンうるさくてかなわんな、という顔をしてますが、様子を窺った限りでは、母ちゃんのことを嫌いではなさそうです。

一部、ばあさんに対する使命感みたいなものも働かせて、ちょこちょこ売り込みに来ます。おっさんが売り込みに来た時には、わたくしは引っ込んで、母ちゃんの買い物活動に全権を委任しています。



お買い物、特に女性のそれは、まさしく自己活性化の源と言ってよろしいかもしれません。この時のお買い物活動も、モノの売り買いを通じた、母ちゃんのコミュニケーション

行為であり、計算活動であり、情報収集活動でもあるように見えます。
　だから、このような人間関係も大事にしてあげなければいけません。
　おおかたのお買い物は、近くのスーパーまでわたくしが車で出かけ、ささっと済ませます。
　しかし、野菜については、切迫した状態でない限り、極力、おっさんとの買い物への、母ちゃんの出番を残しておくべく、留保しております。

■２００７年7月３１日

　昨日は、土用のウシの日でしたので、さいぜんから母ちゃんより、リクエストのあった「うなぎ」をスーパーで買ってきました。
　あんたの買い物は、チビーチビ、しみったれとるね、と常々罵倒されています。買ってきたうなぎを、母ちゃんに誇らしく見せびらかしたところ、
　「じんべぇなこと」と言われました。
　じんべぇな・・・というのは、非常に稀なとか、滅多にない、とかを意味する形容詞です。
　それも、使い方がひとつに限定されていて、例えば、普段上等の人が、稀に失敗するような時には、じんべぇなこととは言いません。普段下等の人が、稀に立派なことをする時に、じんべぇなことと言います。
　わたくしが、普段、買い物等について、大変下等であるにも関わらず、土用のウシの日、みごとにうなぎを購入してきた。立派である・・・。
　というどっちかと言えば、ほめ言葉にあたる言い方を、母ちゃんが為されたわけであります。
　しかし、よく考えれば分かるように、反面、あんたは普段は下等なんだよ、
　という戒めがこの言葉には込められています。
　そこにこそ、いかにも母ちゃんらしい愛用句の「じんべぇなこと・・・」の語感の意味があるのでしょう。
　さて、そのうなぎを食ってる時でありますが、母ちゃん、変なことを言いました。

「やっぱり、うなぎはバリュームのあってよかねぇ」

「え？バ、バリューム？・・・健康診断の時にいやいやながら飲まされるあのバリウムのことでっか？」



思わず、そっくり返りそうになりましたが、バリュームあらため、どうやらボリュームのことであったようです。

わざとでなく、天然でこんなギャグをかますことの出来る母ちゃん、やはり天才ではないでしょうか。

■２００７年8月２０日

母ちゃんには、安全ピンが不可欠のアイテムです。安全ピンについては、先のとんがりが安全でなく、出来れば遠ざけたい日用品です。でも、それは母ちゃんの身体の一部のようになってしまい、もはやこちらもそれを制止するのが困難な状況です。

母ちゃんは、安全ピン以外にも、色々必要不可欠な付属物を大切にしています。洗濯バサミと輪ゴムであります。安全ピン、洗濯バサミ、輪ゴムはもはや、母ちゃんにとっての三種の神器となっているのです。

安全ピンの用途は、身に着ける衣料関係、洗濯バサミは、開封後の袋など主に台所関係、そして、輪ゴムは、衣料、台所以外の紙製品や小物関係へと使い分けられています。

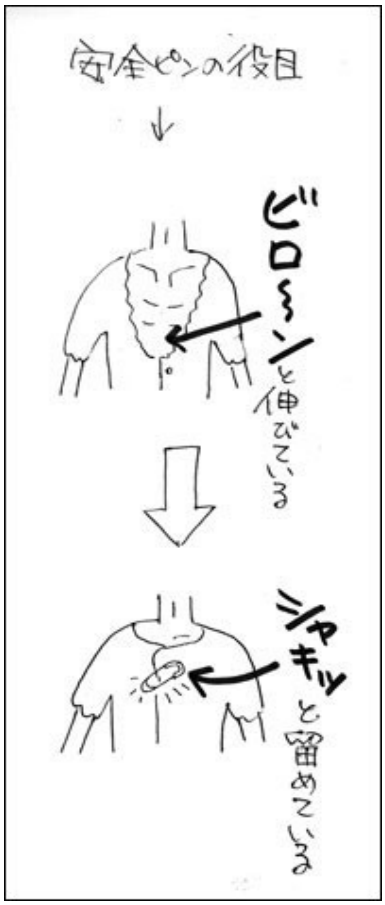
どれもこれも現代人からは、忘れられようとしている、役目を終わりかかった付属物た

ちです。
　また、これらの付属物たちには共通性があります。どれも、バラバラに離れたものをつないだり、まとめたりする役割があります。
　ちょっと文学的に表現するならば、これらの付属物たちへの母ちゃんの愛着は、そのまま自分たち高齢者の立ち位置を象徴しているようにも思えるのです。
　どんな些細な付属物にも、使いようによっては、このように重宝である。自分の周りを整理するのに、若い人に便利なグッズがあろうかもしれないが、高齢者にとっては、長年親しんだ安全ピンや洗濯バサミや輪ゴムの方が、よっぽどありがたい。

　また、これから先は、自分の周囲からは離れていくものばかりです。
　お馴染みのお友達や同級生の方々も、少しずつ減っています。
　自分の頭の中からも、大切な思い出など、離れて欲しくないものが少しずつ消えていきます。
　そんな思いが、象徴的な形となって、「つなぎとめるため」の三種の神器に凝縮されているのかもしれません。

　ちょっと文学的でしたので、ガラッと気分を変えて、マンガ的なことでいきましょう。
　もうひとつの安全ピン事件として、こんなこともありました。ある病院に行った時のことです。
　上半身のレントゲンを撮ることになり、母ちゃん、ババシャツ一枚になって別室に連れて行かれました。ちゃんとシャツの様子など、チェックするいとまもなかったので、左図のようなことになってしまったのです。


レントゲン頭に
くっきりと撮った
安全ピン
先生、
あたしゃ
安全ピンなんか
飲んでません
けんね
ゾーターンの
ごとく…


安全ピンの役目
↓
ビロ～ンと伸びている
シャキッと留めている

※注「ゾータンのごと…」とは、「冗談みたいなこと（を言わないでください)」の意です。